

【発行日】平成 20 年 8 月 24 日【編集・発行】横浜市桂台地域ケアプラザ

HPアドレス: <http://www.katuradai.com>

今年も「桂台地域ケアプラザ中学生ボランティア講座」を開催し、近隣中学校から 15 名の中学生が集まり、「防災」をテーマに「いのちを守る大切さ」を学びました。初日は、緊張していた中学生たちも、最終日には自信に満ち溢れた笑顔でケアプラザを後にし、中学生の成長ぶりをとても頼もしく感じました。6 日間で学んだ事を少しでも多くの人に伝えていってほしいな〜と心から願っています。(詳しいことは裏面に報告させていただいています。)

また、この時期は中学生たちや大学生たちの出入りが多くなる為、桂台地域ケアプラザの館内がいつも以上に賑やかになります。子どもから大人まで、幅の広い年齢層の方から親しまれるケアプラザであってほしいなと改めて感じました。

豊かな老後のための講座 ～いきいき さわやか シニアライフ～

いつまでも健康で若々しく、充実した人生の円熟期を迎えるためには日々の暮らしの中で、どのような事を心がければよいのでしょうか。皆さんとご一緒に考えてみませんか。多数のご参加をお待ちしております。

| 日 程 | 内 容 | 講 師 |
|--------------|--|--|
| 10/17 (金) | ①【公開講座】 嗚呼！懐かしの歌声喫茶「かつらだい」 | 歌声喫茶「ともしび」初代リーダー 青柳 常男氏 |
| 10/24 (金) | おひとりさま・おふたりさま・おおぜいさまの老後 － グループリビングの試み | 一級建築士 NPO法人「住まい・まち研究会」 代表 夏目 幸子氏 |
| 10/31 (金) | みんなで無理なくのびのび体操 ※動きやすい服装で、ご参加ください。 タオル・飲み物・上履きをお持ちください。 | 体操インストラクター 菅原 亜紀氏 |
| 11/5 (水) | ②横浜開港150周年記念ウォーキングツアー 「関内・みなとみらいを歩こう～変わりいく街を記憶に～」 | NPO法人 横浜シティガイド協会 |

■募集人員 30名 (①のみ50名) 年齢・性別は問いません。

■時 間 14時～16時 ②のみ10時 JR関内駅集合 ※詳しい内容は、後日お知らせ致します。

■参加費 ①300円(飲み物付き) ②250円(ガイド代) ※交通費・ランチ代(希望制)は実費負担

■申込締切 10月10日(金) 応募多数の場合抽選となります。



親子であそぼう(おもちゃ文庫特別プログラム) ～人形劇がやってくるよ～

残暑が続きますが、もうすぐ秋ですね。9月はパパも一緒に人形劇で楽しみませんか。

土曜日の午前中、家族でふれあいのひとときをどうぞ。

日時：9月20日(土) 10:30 ～ 11:30

場所：桂台ケアプラザ 2F 多目的ホール 講師：鎌倉女子大学附属中・高等部児童文化部の皆さん

内容：人形劇「いたずらランちゃん」バルーンアートなど



いのちを守る大切さ～防災の視点で考えてみよう～

記録的な猛暑が続く中、今年で8回目となる桂台地域ケアプラザ夏休み恒例の「中学生ボランティア講座」が7月29日に幕を開けました。うだるような暑さも物ともせず、元気に参加してくれた中学生は合計15名（上郷中学生12名、桂台中学生3名）。その他に大学生リーダーが6名、犬山町子ども会の塚本会長や上郷西地区体育指導委員の三根会長と桂台地域ケアプラザ職員など大人のリーダー7名を加えた総勢28名が5つのグループに分かれての6日間の講座がスタートしました。

今年度の「中学生ボランティア講座」のテーマは『防災』について。「災害は忘れた頃にやってくる」という諺がありますが、今年だけでも5月の中国・四川大地震、6月には岩手・宮城内陸地震、そして7月は岩手中部地震と大地震が「忘れる間もなく」相次いで起きています。また、関東大震災からすでに85年が過ぎ、私達の住む横浜でも巨大地震の発生が危惧される中、「実際に災害が起こった時、中学生には何ができるか」について皆でじっくり考える内容を企画しました。

講座初日のオリエンテーションには栄消防署の飯島課長を講師としてお迎えし、「いのちを守る大切さ」をテーマに防災についてのお話をうかがいました。いくつかのキーワードをご紹介します。

◆命の価値に差はない！

小学生の頃は命についてあまり考えないが、中学生くらいになると容姿のいい人や勉強ができる人、スポーツ能力の高い人とそうでない人達とは、命の価値に差があると勘違いしてしまう。大災害が発生すると何万というかけがえのない命が瞬時に消滅してしまう。

この講座を通して、命の大切さ、そしてすべての命の価値に差はない、ということを強く実感してほしい。「**ぬちどうたから = 命こそが宝**」。命があってこそ、あらゆる喜びや悲しみが生まれる、という沖縄戦で家族をすべて亡くした方の重い言葉を教えていただき、皆でかみしめました。

◆命を守る知恵を持とう！

災害発生時、人口の多い栄区の避難所は被災者で溢れかえり、厳しい避難所生活が予想されます。まず、一番困るのが飲み水。そこで、飯島さんからの質問。「容積10ℓのバケツで12ℓの水が運べますか？」「段ボールで水が運べますか？」いずれもビニール袋に水を入れて口を閉じると、バケツや段ボールで運ぶことが可能となります。



次に「トイレが全く使えなくなったら（想像しただけでもゾットする）どうするか？」ビニール袋と新聞紙を敷いた段ボールを2脚の椅子を向かい合わせに並べた真ん中に置くと簡易便器に早変わり。

（恥ずかしいけど、箱には名前を書いて自分だけで使おう！）また、食べ物の配給は嫌いな物でももらっておくと取りかえっこの種になるなど、すぐに役に立つアドバイスをいただきました。「災害時には何気ない物でも工夫して使う知恵を持つと生き延びられるよ」との飯島さんの言葉に、参加者全員が「なるほど！」と納得しました。

以上